



第64号

発行日
令和6年3月31日

発行
栃農高同窓会事務局

栃木県立栃木農業高等学校
同窓会

ご挨拶



同窓会会長
横尾 武男

同窓会機関誌「土」の発刊にあたり一言ご挨拶申し上げます。同窓生の皆様には日頃から同窓会活動にご理解とご協力を頂いておりますことを深く感謝しております。今後とも栃農高同窓会へのご支援を心よりお願い申し上げます。

この一年は、五月には新型コロナウイルス感染症が二類から五類に引き下げられ、ようやく日本の社会経済活動が以前のような活気が戻ってきた中、しかしながら、新年早々から日本で発生した二つの大きな出来事に心を痛めずにはおりません。元旦の夕刻に発生した能登半島での震度七の地震・津波が発生し、新年の家族団らんの場合が一瞬で奪われ、多数の方々が命を落とされ、今もなお行方不明の方がいらつしやるほか、多くの方が避難所での生活を強いられております。また、二日の夜に発生した羽田空港での航空機衝突事故では民間空港機側の乗客乗員約四百名が全員無事であった奇跡の一方で、地震被災地への救援物資を運ぼうとしていた海上保安庁航空機側の乗組員の方々が複数お亡くなりになった

のは痛恨の極みであります。被災地の皆様には心からお見舞い申し上げるとともにお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り致します。一日も早い回復、復興を心より祈念しております。

さて、今年度の同窓生の活躍に目を向けて見ますと、春の叙勲において山中哲様、今井澄美様、戸田良知様が褒章を受章され、秋の叙勲では三柴賢一様が褒章を受章されました。さらには、野木町議会議員選挙では、針谷武夫様が当選し、交通栄養章緑十字金賞を清水一男様が受章するなど多くの同窓生が多方面で活躍している姿が伺うことができ大変嬉しく感じております。また、母校の教育活動においても数々の活躍を聞いております。農業クラブ活動では、プロジェクト発表、意見発表で関東大会に、家畜審査競技会では全国大会へ出場したり、部活動では、手打ちそば部や農業環境部などの文化部では数々の賞を受賞したり、運動部では柔道部などの活躍も新聞等で拝見させて頂いていただいております。

一方で、近年における少子化や過疎化の著しい進行により、生徒確保等の課題も生まれ、学校を取り巻く環境は決して生易しいものではありません。昨年七月に県教育委員会から第三期の高校再編計画(案)が出され、本校もその対象となり、栃木農業高校・栃木工業高校・栃木商業高校の三校が統合することになるというものでした。小林校長先生や新聞で知るまで知らされずまさに私にとつて寝耳に水だったのです。同窓会会長として、七月にとちぎ岩下の新生姜ホールで実施された説明会にも役員の方々と参加して同窓会としての要望を県に伝えてきた所でもあります。総会などでも同窓会の諸先輩方を始め多くの方々から、惜しむ声や否定的な御意見など沢山頂戴しました。令和十七年の中卒見込み者数は

令和五年比二八%減や学校の小規模化が進行し生徒同士の切磋琢磨の機会の減少や適正な教員数の配置や多様なニーズに応じた教育課程の編成が困難になり、教育の質の低下するおそれがある事を考えるとやむを得ないことであると理解するしかありません。

しかし、これまで一二〇年近く、脈々と続いてきた農学校・農業高校・栃農の歴史や伝統を何らかの形で残せるよう働きかけていく所存でございます。

令和八年には、創立一二〇周年を迎えますが、次年度より総会などで多くの諸先輩・同窓生より御意見などをいただき、伝統継承・栃農ブランドの確立をしていければと考えておりますので、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

終わりに、母校の益々の発展と会員の皆様のご健勝・ご多幸をご祈念申し上げます。発刊の挨拶といたします。



ご挨拶



校長

小林 政至

同窓会会員の皆様方には、日頃から本校の教育活動にご理解ご協力をいただいておりますことに、衷心より御礼申し上げます。引き続きよろしくお願い申し上げます。

本年度は、新型コロナウイルス感染症が五類に引き下げられたことから、単純に前に戻すというのではなく内容を吟味しながら取捨選択を行い、効果的な方法を模索して可能な行事を行うという基本姿勢の下で行いました。四年ぶりに開催された栃農祭は、一般来客の制限を外し、開催時間を短くして無事終了することができました。四年振りということ、生徒も先生方も経験値が少ない中で、手探りの状態からなんとか開催できたと言うのが本音の部分でありました。「継続は力なり」と言う言葉がありますが、継続していくことで、本校の伝統の栃農祭が成り立っていったと言うことを改めて感じた次第であります。次年度は、さらに磨きをかけて十一月に開催予定ですので、楽しみにしていただきたいと思います。

学校農業クラブ活動では、関東大会にプロジェクト発表、意見発表で二部門出場、全国大会では、家畜審査競技会乳牛の部、肥育の部に県代表として出場することができました。全国産業教育フェアでは、フラワーアレンジメント競技会で出場権を勝ち取ることができました。その他、昨年に引き続きダルメイン世界マーマールードアワード&フェスティバル日本大会プロの部銅賞、全国高校生そば打ち選手権大会で、三度目の敢闘賞を受賞する

ことができました。県の総文祭写真展で入選また、県高校新人柔道大会(個人戦)では県大会三位に入賞して関東大会出場を決めることができました。栃木ものづくり選手権では、金賞、下野教育書道展でも金賞を受賞するなど生徒達の様々な活躍がありました。また、柔道部が新人大会団体戦で入賞し、着実に力をつけているのを垣間見ることができました。

ところで、昨年七月に県教育委員会から第三期の高校再編計画(案)が出されました。本校もその対象となり、栃木農業高校・栃木工業高校・栃木商業高校の三校が統合することになります。これまで一二年近く、脈々と続いてきた農学校・農業高校・栃農の名称が、学校名としてはなくなることになります。同窓会の諸先輩方を始め多くの方々から、惜しむ声を沢山頂戴しました。私一人としても、二〇年以上勤務した学校でありますので寂しい気持ちで一杯であります。それは、商業や工業の同窓生も同じだと思います。急激な人口減少期となった現在、最小規模(一学年四クラス)の学校を維持できる生徒が集まらない状況となつてしまひ、やむを得ないことであると理解するしかありません。この統合で県からは、未来共創型の専門高校にするという強い意向が示されました。これまでの、それぞれ専門性の深い学びを踏まえながら、学科横断的な教育をすすめることで、時代の変化に対応できる幅広い知識と技術を兼ね備えた生徒を養成できるとしています。現在でも農業教育を巡っては、IoTやAIなどコンピュータを駆使したロボットやドローンなどスマート農業化、生産物を生産者が直接加工して付加価値をつけて販売まで行う農業の六次産業化などがすすめられており、工業や商業の幅広い知識も必要になっていきます。新校では、農業系の学科は、農業生産系の植物や動物を栽培管理する「農業科学科」と、農業生産物を加工・保存・流通させる学びをする

「食品科学科」二クラスになります。農業教育の中では、農業の多面的な機能の一つ機能の一つである、環境保全や生物活用・グリーンライフなどの内容も網羅しながら、他学科と連携した学びを実現させて行きたいと考えております。この先、「栃木農業・栃農」という学校名はなくなってしまう訳ですが、栃農精神、これまで培ってきた農業生産技術、加工食品などは継承して行くことに変わりありません。令和八年には、創立一二〇周年を迎える我が校ですが、このような伝統を将来にもわかりやすく残していくために、次年度から具体的に動きをすすめたいと考えております。それは、「栃農ブランドの確立と継承」であります。教員側からすれば生徒も栃農ブランドの生徒になりますし、本校から生産される農作物、加工食品すべてが栃農ブランドになります。このブランドの商品価値を高めて、「栃農」という名称は何かの形で存続させて、次期新しい学校になつてもそのブランドを守っていきたいと思ひます。今後とも皆様の、ご理解とご協力をお願いいたします。

結びに、本校では農業という産業を幅広い角度から実践を通して学び、自信と誇りを持って地域で活躍できる人材の育成を目標に、全職員をあげて取り組んでいく所存でありますので、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。ご活躍を御祈念しご挨拶いたします。

栃農高同窓会総会報告

令和四年度栃農高同窓会が令和五年七月二三日(日)にホテルサンルート栃木において行われました。役員、各支部長、評議員(各卒業代表者)にて実施となりました。

横尾武男会長(昭和四五年農卒)からは、「母校の活躍が様々なメディアに取り上げられ、四学科がそれぞれの特色を持って活躍している姿を見て嬉しいとの発言がある一方で、県教育委員会から第三期の高校再編計画(案)が出され、栃木農業高校・栃木工業高校・栃木商業高校の三校が統合することになり、これまで一二〇年近く、脈々と続いてきた農学校・農業高校・栃農の名称が、なくなることの寂しさがあるが、これからも、我々同窓会一丸となつて学校を応援していきたい」と心強いお言葉をいただきました。

総会の議事では、令和四年度事業報告、決算報告(監査報告)、令和五年度事業計画案、予算案について審議していただきました。また、創立一二〇周年記念行事事業についてや三校統合については、参加者から多くの惜しむ声を沢山頂戴しました。総会終了後には、「おいでよ!ゆずの里」太平山のユズを自慢の品にのせて「のテーマのもと農業環境部(食品科学班)の生徒による生徒活動発表が行われました。また、会長より農業クラブ関東大会出場の激励金の贈呈がありました。

～総会次第～

- 1 開会のことば
- 2 会長挨拶
- 3 学校長挨拶
- 4 議題
 - (1)令和4年度事業報告
 - (2)令和4年度決算報告(監査報告)
 - (3)令和5年度事業計画案
 - (4)令和5年度予算案
 - その他 祝賀会について
創立120周年記念行事事業について
- 5 閉会のことば



令和5年度 同窓会入会式 新入会員 147名!!



令和五年度 新入会員代表
早乙女 美歩

同窓会入会にあたり新入会員を代表いたしました。一言ご挨拶申し上げます。同窓会入会式にて、私たち一四七名の入会を認めていただきありがとうございます。同窓生の一員になれたこと、とても嬉しく思います。

今までの高校生活を振り返っていくと、様々な思い出がよみがえると同時にたくさんの方々に助けられ、支えられていたことが思い出されます。新型コロナウイルスの影響もあり、栃農祭を始めとした様々な行事を満足に行うことができず思うようにいくことができない場面がたくさんありました。そんな中でも自分たちで状況を変えようと意見を出し合い、例年通りにはなくとも心に残る行事ができたと思います。また、行事だけでなく、部活動や農業クラブの活動でも上位の大会に進む際に同窓生からの応援や激励金をいただきとても感謝しています。このような活動にご尽力くださった先生方や同窓生の皆様から心からお礼申し上げます。

これからの私たちはそれぞれの道を歩み、目標にむかって努力していきます。新しい環境や出会いに不安に思うこともあるでしょう。しかし、ご活躍されている先輩方を目標に少しづつでも成長していこうと考えています。また、栃木農業高校の同窓生として恥じないよう今まで勉強してきたことを社会に発揮できるように頑張っていきますので、温かく見守ってくださると幸いです。最後に栃木農業高校ならびに同窓会の益々のご発展を祈念し、挨拶いたします。

栄光の先輩方

山中 哲 様 (昭三十八年農業科卒)

旭日単光章 (農業振興功勞) 受章

今井 澄美 様 (昭四十四年食化科卒)

瑞宝単光章 (消防功勞) 受章

戸田 良知 様 (昭四十四年農業科卒)

瑞宝単光章 (消防功勞) 受章

針谷 武夫 様 (昭四十六年園芸科卒)

野木町議会議員選挙 当選

横尾 武男 様 (昭四十五年農業科卒)

鹿沼市議会議員選挙 当選

三柴 賢一 様 (昭四十二年農業科卒)

瑞宝単光章 (消防功勞) 受章

清水 一男 様 (昭三十六年農業科卒)

交通榮譽章緑十字金章 受章

交通榮譽章 緑十字金章を

受章して



昭和三十六年農業科卒
清水 一男

私は、学校を卒業して、兼業農家として、野木地区の栄研化学(株)に就職をしました。会社は、臨床検査薬の研究、製造販売です。最初製造を担当して、途中から人事関係に異動をして六二歳にて会社を定年退職しました。その間、会社に母校の実習生を受け入れたり、計六〇名以上の採用などをしたり致しました。

退職二年後、豊田支部の同窓会会長に任命され、現在に至っております。このたび同窓会事務局より令和五年度の受章、祝賀会を開催していただきました。その受章内容は、警察の交通安全の外部団体で、会社の代表として又退職してからも引き続き約五〇年間交通安全アドバイザーとして、実績を重ね、この度交通安全榮譽章「緑十字金章」を警察庁長官及び全日本交通安全協会会長連盟表彰をいただきました。

現在、栃木県地域交通安全活動推進委員協議会会長として更なる職務として真剣に取り組む「悲惨な事故防止」の為に「率先垂範有言実行」の目標に向かって頑張っています。

最後になりましたが、母校の同窓会の皆様には、受章のお祝の会をしていただき誠に感謝申し上げます。

本校生徒の活躍

関東高等学校選抜柔道大会に参加して

植物科学科 一年

萩原 泰聖

私は、一〇月に開催された「関東高等学校選抜柔道大会」に栃木県代表として出場しました。小学生のころから柔道に取り組んできましたが、今回は中学生時代に続き、三回目となる関東大会出場となりました。

これまでを振り返ってみると、一回目の大会では初戦で敗退してしまい結果を残すことができず、二回目の大会では新型コロナウイルス感染症にかかってしまい棄権となってしまいました。そして三回目の今回はたくさんの方々の協力があつて出場することができました。

関東大会予選では、久しぶりの大会出場であつたこともあり、プレッシャーや不安でいっぱいでしたが、これまでの練習はもちろん、多くの方々に応援やアドバイスをもらつたことで、無事に予選を通過することができました。

関東大会本戦においては、初戦で東京都代表の強豪校である国士舘高等学校の選手と対戦し勝利しましたが、次戦で千葉県代表の木更津総合高等学校の選手に負けてしまいました。私だけであれば出場することさえ難しい大会だつたと思いますが、たくさんの方々のおかげで初戦突破することができたことにも感謝しています。

最後になりましたが、大会参加にあたって激励いただいた同窓会の皆さまに心からお礼を申し上げますとともに、今後も精進して栃農生として活躍できるよう頑張りたいと思います。